

【2026 年度/教養科目領域/基盤科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
ディベート演習		選択	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
堤 美智	B315	michi.tsutsuimi	木曜日 12 : 10~12 : 50		
授業の目的・概要	主体的に問題を発見し、問題解決に必要な情報を収集、分析、整理し、問題解決に向けた方法の検討と解決法の選択をすることができる能力を身につけることを目的とする。現代社会における重要な特定の主題や現代社会が直面する諸課題に関するテーマを取り上げて考察することにより、問題の発見方法と対策の設定方法について学習するとともに、文献による情報収集や、情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現するための基礎的な知識と技能について学習する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	自身の教養力向上を目的としているため、事前学習および討論の準備は各自で行い授業に参加すること。なお、ディベートの実践に関しては、議論の練習の場であるため、正しい日本語を用いること。人格否定や罵声を浴びせるなどの行為は行わないこと。				
教科書	必要に応じ講義中に紹介する				
参考書	必要に応じ講義中に紹介する				
外部教材					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	論理的な思考法を身につける			HSU(4)	
②	自分の意見を正確に伝える話し方や言葉遣いを身につける			HSU(4)	
③	根拠に基づく議論の仕方を学び、実践する			HSU(4)	
④	役割分担を通じてグループワークの進め方を学び、実践する			HSU(4)	
⑤	ディベートに必要な資料を収集し適切に活用できる			HSU(2)、(5)、(6)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション 「調べる」について学ぶ。	講義	授業の復習として、配布資料を見直しファイリングを行う。	2	
2	ディベートの目的と方法 ディベーターの役割、ジャッジの方法について学ぶ ※ディベートのテーマについての発表	講義	授業の復習として、配布資料を見直しファイリングを行う。	2	
3	ディベートの実践 (個別作業)	講義	テーマに関する下調べ (レポート用紙 1 枚以上)	2	
4	ディベートの実践 (グループワーク)	講義・GW	テーマに関する下調べ (レポート用紙 1 枚以上)	2	
5	ディベートの実践 (発表)	講義 プレゼン	テーマに関する下調べ (レポート用紙 1 枚以上)	5.5	
6	ディベートの実践 (発表)	講義 プレゼン	テーマに関する下調べ (レポート用紙 1 枚以上)	5.5	
7	ディベートの実践 (発表)	講義 プレゼン	テーマに関する下調べ (レポート用紙 1 枚以上)	5.5	
8	ディベートの実践 (発表)	講義 プレゼン	テーマに関する下調べ (レポート用紙 1 枚以上)	5.5	
試	定期試験は行わない。				

【2026 年度/教養科目領域/基盤科目群】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		0	40	40	10	10	100	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	20	0	10	0	30	
	思考・推論・創造する力	0	0	10	0	0	10	
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	0	10	
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10	
	コミュニケーション力	0	0	10	0	5	15	
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	5	15	
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	それぞれの授業で提示された課題について、評価をする。 授業で学んだ書き方を遵守すること。				レポート評価・添削	
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①	✓	各討論チームは、講義期間中に複数回ディベーターとして討論に参加する。ディベートの決まりに従って、ワークシートにまとめたものを基に討議を行う。教員・討議の担当ではない学生（オーディエンス）が判定者としてジャッジ・ペーパー（判定票）に記入したものを評価の一部とする。				発表ごとに、教員より講評を行う。 ジャッジ・ペーパーについては、集計後に提示する。	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①		ディベートテーマごとに、下調べを行った資料をファイルし提出することで、事前準備が効果的に行われていたかを確認・評価する。				確認したファイルは、コメントして返却する。	
	②							
	③							
	④							
	⑤	✓						
	⑥							
その他	①	✓	文献検討におけるグループワークやディベート中の授業内での取り組み姿勢や意欲を評価する。授業以外の学習や私語に関しては減点の対象となる。				問題のある行動をした学生には、直接口頭で減点をする <sup>こと</sup> を伝える。	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員	なし							
教員の実務経験	担当する教員は、大学における教育経験を10年以上有したものである。							
実践的授業の内容	コミュニケーションの取り方や発表の仕方など、グループワークを中心としたアクティブラーニングを取り入れた授業を行う。							
そ の 他	最小人数6名以上で開講します。 止むを得ずシラバスの変更が生じる場合は授業・Teams等で周知します。							